

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：58001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520851

研究課題名(和文) 沖縄県外史料の蒐集と分析に基づく近世琉球寺院の社会的機能の解明

研究課題名(英文) Elucidation of the social function of early modern Ryukyu temple based on the collection and analysis of Okinawa Prefecture outside the historical materials

研究代表者

下郡 剛 (SHIMOGORI, Takeshi)

沖縄工業高等専門学校・総合科学科・准教授

研究者番号：50413886

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：東京大学史料編さん所架蔵史料を中心に沖縄県外史料を搜索し、僧侶人名データの集積を進めるとともに、沖縄県内全寺院の現地調査を実施し、近世期の僧侶人名が記された石碑・位牌・墓碑の存在を確認できた。それらの中、沖宮所在石碑については発掘調査を実施した上で、石碑成立の背景を解明、桃林寺墓碑についても同様の分析を行った上で、研究成果を公刊した。

研究成果の概要(英文)：It was carried out field survey of Okinawa all temple. Monk of the names of early modern life we were able to confirm the presence of the monument, memorial tablets, tombstone marked. Among them, was carried out the excavations for the monument of Okinoguu, it was to elucidate the background of the monument established. Also, we were subjected to the same analysis also tombstone Torinji. On top of that, we have published the research results as a book.

研究分野：日本史

キーワード：沖宮 桃林寺 石碑 墓碑 三牌 首里円覚寺 仏教 琉球

## 1. 研究開始当初の背景

前近代琉球史研究は、政治と外交を中心的な論点としてなされてきた。その根底にある問題意識は、日本との関係をどのように位置づけるかにあり、これに対して被支配者階級を含む琉球社会そのものを対象とした歴史学研究は等閑視されてきた。

このような琉球社会史研究の現状の中でも、特に本研究が対象とする仏教寺院は、日本と異なり墓守の機能を有さないため、地域社会に深く根ざしたものと見なされず、さらに研究が希薄な分野の一つといえる。しかもそれらは、琉球における多様な信仰形態の一部として、部分的に仏教を取り上げたにすぎない。琉球仏教を正面から取り上げた研究としては、知名定寛『琉球仏教史の研究』（2008年、榕樹書林）が唯一の成果である。

さらに、これらの研究は、ごく近年の知名氏のものも含め、全て首里王府が編纂した編纂物に依拠してなされ、その結果として導き出された成果は、薩摩藩による宗教統制や、鎮護国家仏教としての意義など、あくまで外交・王権とリンクする範囲の中にある。

申請者は、上述の認識に基づき、平成19年度から22年度にかけて「近世琉球寺院の社会的機能の解明」との課題名で日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)の助成を受けた。当該研究では、王府からの経済的支援を受けていない琉球寺院が数多く存在しえた理由を、寺院の社会的機能の解明を通して明らかにすることを目指し、「家文書」や日記を中心に分析し、当初計画で想定した通りの成果を得た。そのような琉球側の地方文書を分析する他方で、平成21年度からは、新たに研究分担者に林謙氏（東京大学史料編纂所教授）、研究協力者に生駒哲郎氏（東京大学史料編纂所図書部史料情報管理チーム事務補佐員）を加え、東京大学史料編纂所架蔵史料を中心に沖縄県外の琉球寺院関係史料データの集積を進め、近世期の琉球寺院ならびに僧侶名に関する情報を約400件蓄積できた。沖縄県外史料の分析に基づく前近代琉球寺院研究は、東アジア交流の視点で、日本中世史の側から行われてきたが、近世史については研究がない（近世琉球において寺院組織を有さない浄土真宗「かくれ念仏」信仰などを除く。浄土真宗では、例えば知名定寛「資料紹介・本願寺史料研究所蔵浄土真宗琉球関係史料」等がある。）この約400件のデータは、沖縄県外史料の分析に基づく近世琉球寺院研究の深化が可能であることを端的に示している。

これらの史料を蒐集・分析することで、近世琉球寺院研究の一層の深化を期待できるばかりでなく、先の戦争によって失われた沖縄の文化財の回復にもつながるものと考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、沖縄県外の琉球寺院関係

史料の検討を通して、近世期の琉球寺院の社会的機能を明らかにすることにある。

本目的を達成するために、1、近世期琉球僧の法脈と琉球国内における僧侶の活動を明らかにし、2、琉球僧侶の日本寺院への留学の実態と、日本僧侶との人的ネットワークの構築を明らかにする。さらに、3、琉球僧侶の日本寺院留学と琉球帰国後の活動の連関性を明らかにする。

## 3. 研究の方法

まず第一に、東京大学史料編纂所架蔵史料を調査することで、琉球の僧侶の法脈を明確にする。当該史料を分析することで、従来知られていなかった僧侶の法脈や活動のほか、寺院内建造物などを知ることができると考えた。

第二に、沖縄県内史料を搜索・分析し、沖縄県外史料との整合性を比較検討することで、沖縄県内史料の史料的な信頼性を高めてゆく。沖縄県内史料については、文書・記録類はもろちんではあるが、それ以外に、石碑・墓碑・位牌などの金石文資料も蒐集・分析を進める。特に位牌などは近代作成のものが多いため、他の沖縄県外史料と突き合わせをすることで、史料的価値を高めてゆく作業が必須となる。これらの作業を通して、法脈がより具体的に明らかになると考えた。

## 4. 研究成果

東京大学史料編纂所架蔵史料を中心に沖縄県外史料を搜索し、僧侶人名データの集積を進めるとともに、沖縄県内全寺院の現地調査を実施し、近世期の僧侶人名が記された石碑・位牌・墓碑の存在を確認できた。それらの中、沖宮所在石碑については発掘調査を実施した上で、石碑成立の背景を解明、桃林寺墓碑についても同様の分析を行った上で、以下の研究成果を公刊、或いは発表した。

研究成果の個別具体的な内容は、各著書・論文を参考にさせていただきより他ないため、ここでは、特に著書として刊行した桃林寺墓碑と沖宮石碑を取り上げて概要のみ説明しておきたい。

石垣島の桃林寺に八基の僧侶墓碑が現存することを確認、墓碑には僧侶の示寂年月日が記されていた。これらの墓碑の中、従来学界に紹介されていた墓碑は一基だけしか存在しないことが確認できたため、全ての墓碑の銘文について報告した。墓碑は雍正年間から明治にかけてのものであり、特に雍正三年のものや乾隆十八年のものは八重山大津波以前の貴重な文化財であることを指摘した。また現在の沖縄の寺院にて、近世期の僧侶墓碑が残っているのは桃林寺だけであることから、その現状と他の文献史料とをつきあわせすることで、近世期琉球寺院における墓の形態について指摘した。

それらの墓碑研究に加えて、桃林寺本堂内所在の文化財についても検討し、桃林寺が所

蔵する三牌の中、今上牌と檀那牌は近世期のものであることを指摘した。その中で今上牌については、沖縄県現存唯一の近世期の今上牌であり、かつ日本本土に現存する今上牌との比較を通して、国王の聖寿を祈ったものとしては、日本国内現存唯一のものと考えられることを指摘した。

また、桃林寺の三牌と、それ以外の沖縄県現存三牌の比較を行った際には、戦災を受け失われた首里円覚寺の三牌の中、火徳牌と檀那牌が、沖縄県立博物館・美術館に「位牌」として現存していることも発見し、公表した。

他方、那覇市奥武山に所在する沖宮の石碑についての研究成果の概要は次のとおりになる。沖宮の天燈山山頂に四基の近世期の石碑群が存在するが、今まで銘文の判読を含めた本格的な調査はなされていなかった。これらの石碑は下半部が土中に埋没していたことから、発掘調査を実施し、銘文の判読を行った結果、その中の一基は、琉球における銭の創始者として『琉球国由来記』に登場する当間親雲上重陳が建立したものであることがわかった。石碑には「門説」と彼の法名の方が記されており、この石碑と沖縄市池原に所在する石碑がセットで同年に建立されたものであることがさかかった。さらに別の石碑の銘文から、奥武山には著名な近世寺院龍洞寺以前に寺院が存在していたことが知られ、門説は同寺院を創建した人物と考えられることを指摘した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

- 下郡剛、首里城公園内金石文二題 - 弁財天堂前の手水鉢と冊封正使趙文楷の石碑片 -、ぶい・ぶい、査読無、29、2015、pp.1-13
- 下郡剛、近世琉球における日記の作法 那覇役人福地家の日記をとおして、倉本一宏編『日記・古記録の世界』(思文閣出版) 査読無、2015、pp.217-224
- 下郡剛、琉球の日記にみる公から私への転換 『福地家日記』をとおして、古文書研究、査読有、77、2014、pp.36-47
- 下郡剛、乾隆二十四年作成の久米島具志川間切家譜、日本歴史、査読有、778、2013、pp.34-49
- 林讓、古文書調査から文化財総合調査へ、醍醐寺文化財研究所編『醍醐寺文化財調査百年誌 - 「醍醐寺文書聖教」国宝指定への歩み - 』(勉誠出版) 査読無 2013、pp.77-83
- 林讓、古文書・聖教、醍醐寺文化財研究

所編『醍醐寺文化財調査百年誌 - 「醍醐寺文書聖教」国宝指定への歩み - 』(勉誠出版) 査読無 2013、pp.84-94

- 下郡剛、近世琉球における役所の日記と役人の日記、日本史の研究、査読無、239、2012、pp.26-32

- 下郡剛、日記に見える院宣について、日本研究、査読有、46、2012、pp.263-275

〔学会発表〕(計5件)

- 下郡剛、沖宮天燈山所在石碑の銘文、近世の宗教と社会研究会、琉球大学、2013、12、21
  - 生駒哲郎、「空地水火風」について、科研組織主催「沖宮天燈山所在石碑に関する調査途中報告会」、沖宮、2013、8、9
  - 下郡剛、沖宮天燈山所在石碑の銘文、科研組織主催「沖宮天燈山所在石碑に関する調査途中報告会」、沖宮、2013、8、9
  - 下郡剛、日記にみる首里土族の生活 伊江親方朝睦日記をとおして -、那覇市歴史博物館企画展示「家譜でひも解く土族の世界」、那覇市歴史博物館、2013、3、23
  - 下郡剛、福地家文書に見る那覇土族の生活 御物城日記と那覇筆者日記、那覇市歴史博物館企画展示「家譜でひも解く土族の世界」、那覇市歴史博物館、2013、3、16
- 〔図書〕(計3件)
- 下郡剛、日本史史料研究会、沖宮順治十七年石碑 - 研究編 -、2015、80
  - 下郡剛、日本史史料研究会、近世琉球寺院の原風景を追う 石垣島桃林寺の墓碑と三牌 -、2015、78
  - 下郡剛、日本史史料研究会、沖宮順治十七年石碑 - 沖縄県那覇市沖宮所在仏教関係石碑四基の発掘調査記録 -、2014、66

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：

番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

下郡 剛 (SHIMOGORI, Takeshi)

沖縄工業高等専門学校・総合科学科・准教授

研究者番号：50413886

##### (2) 研究分担者

林 譲 (HAYASHI, Yuzuru)

東京大学史料編纂所・教授

研究者番号：00164971